

分館長を拝命して

附属図書館医学部分館長 今泉 忠淳

平成 28 年（2016 年）7 月 1 日付けで、弘前大学附属図書館医学部分館長を拝命しました、医学研究科脳血管病態学講座の今泉忠淳です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和 54 年に弘前大学医学部進学課程に入学し、昭和 56 年に医学部専門課程に進みました。医学部生時代には、医学部分館を主に試験のための勉強の場としてよく利用させていただきました。2 年間の臨床研修医を修了してから入学した医学研究科大学院生時代には、まだインターネットや電子ジャーナルが無い時代でしたから、文献の調査や収集で大変お世話になりました。博士号取得後の 5 年間の留学から帰国してからは、文献検索はインターネット経由で行うことが多くなりましたが、実験・研究の合間に、主に新聞を読み、医学部分館にお邪魔してきました。最近では、種々の委員会や弘前大学出版会の業務など、自分が専門としている教育研究分野以外の仕事や、原稿を書かなくてはならないことも増えてきて、参考資料を探しに、医学部分館の書棚へ出掛けることもあります。また、会議と会議の合間とか、実験の反応を待つ間とか、たまたまできた空き時間に、目的もなく分館へ行くこともあります。事務の方々には、「何しに来たのだろうか？」と思われるかもしれませんが、館内の本や雑誌、資料を適当に眺めたりしています。

医学分館の書棚を眺めてみると、大量の医学・保健学の専門書や専門雑誌があることはもちろんですが、その他にも、様々な図譜、山崎豊子氏の「白い巨塔」などの小説、手塚治虫氏の「ブラックジャック」や山田貴敏氏の「Dr. コトー診療所」などのコミック、世界美術全集などもあります。また、医学部分館の階段や自修室には、油絵や色紙なども展示してあります(写真)。私にとっては、

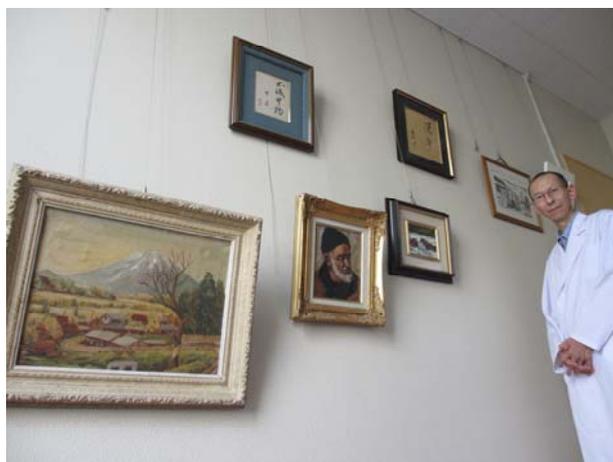
医学部分館は、「へこんだ時」などに、貴重なリフレッシュ、あるいは癒しの空間にもなっています。

という訳で、医学部分館には、30 年以上にわたってお世話になって参りました。今回、医学部分館長を拝命して、少しでも、これまでの恩返しができればと思っております。

私自身は、時々医学部分館にお邪魔しておりますが、試験の前に学生の皆さんが自習に来ている時期を除くと、たいていは閑散としています。これだけの知的な財産の宝庫である医学部分館があまり活用されていないのは、実にもったいないことです。学生さんも、教職員の皆さんも、日々ご多用とは思いますが、時にはインターネットを離れて、月に一度、週に一度でも、医学部分館の書棚を覗いてみませんか？資料や文献に、アナログなアプローチをすることも、デジタルなアプローチとは違ったヒントが得られたり、アイデアが浮かんだりすることもあると思います。

医学部分館が、みなさんに、もっと活用される場となればいいなと思っておりますので、ご意見やアイデアがあればお寄せください。

(いまいずみ ただあつ)



1 階から 2 階に続く階段にて